

目録所在情報サービス利用規則の改正

このたび、「学術情報センターの目録所在情報サービスの利用に関する暫定措置を定める規則」及び「学術情報センターの目録所在情報サービスの利用に関する暫定措置に係る細則」の一部を改正しましたのでお知らせします。

おもな改正点は次のとおりです。

1. 規則及び細則の題名からそれぞれ「暫定措置を定める」及び「暫定措置に係る」を削除し、「学術情報センターの目録所在情報サービスの利用に関する規則」及び「学術情報センターの目録所在情報サービスの利用に関する細則」に改めたこと。
2. 規則第3条の利用者に短期大学、高等専門学校図書館、図書室等を加えたこと。
3. 「所長が特に認める図書館、図書室等」として申請があれば利用者として認めていた「文部省及び文化庁の施設等機関等の図書室等」を規則第3条に利用者として明示したこと。
4. 細則第2条(利用者の要件)の2)を削除したこと。
5. 細則の別紙様式の一部を変更したこと。

なお、上記 5により、以下の申請書の様式が変更となりました。

- ・ 目録所在情報サービス利用申請書(様式1)
- ・ 目録所在情報サービス担当者登録申請書(様式2-1)
- ・ 目録所在情報サービス配置コード登録届出書(様式3)

学術情報センターの目録所在情報サービスの利用に関する規則

〔昭和62年2月3日〕
規則第10号

改正 昭和63年2月5日 平成元年12月6日 平成4年4月1日

(目的)

第1条 この規則は、学術情報センターの目録所在情報サービスの利用について必要な事項を定めることを目的とする。

(利用の定義)

第2条 目録所在情報サービスの利用(以下「利用」という。)とは、図書館等が目録作成、目録検索及び図書館間相互貸借(以下「ILL」という。)の業務等を行うために、次に掲げるシステムを用いることをいう。

- 1) 図書目録システム
- 2) 雑誌目録システム
- 3) ILLシステム
- 4) 上記に係る支援システム

(利用者)

第3条 目録所在情報サービスを利用できる者は、次に掲げる図書館等の組織であって、定常的に目録作業を行っており、学術情報センター所長(以下「所長」という。)が適当と認めた者(以下「利用者」という。)とする。

- 1) 国、公、私立等の大学の図書館、図書室等
- 2) 大学共同利用機関等の図書室等
- 3) 国、公、私立短期大学の図書館、図書室等
- 4) 国、公、私立高等専門学校の図書館、図書室等
- 5) 文部省及び文化庁の施設等機関等の図書室等

- 6) その他、所長が適当と認める図書館、図書室等
(利用の申請)
第4条 利用しようとする者は、所長が別に定めるところにより、利用の承認を求めなければならない。
(利用の承認)
第5条 所長は、利用の申請について適当と認めた者には、承認書を交付してこれを承認するものとする。
(利用にあたっての遵守事項)
第6条 利用者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。
1) 第2条に掲げる利用の範囲を超えてシステムを使用しないこと。
2) 営利を目的とした利用を行わないこと。
3) 著作権を侵害しないこと。
4) プライバシーを侵害しないこと。
5) その他、所長の定める事項を遵守すること。
(報告書の提出等)
第7条 所長は、利用者に対して、利用の結果又は経過の報告を求めることができる。
(利用資格の取消等)
第8条 所長は、第6条に定めるところに違反した利用者に対して、その利用の承認を取り届ける。
第9条 利用者は、次に掲げる事項に該当する理由が生じた場合は、すみやかに所長に届出なければならない。
1) 利用が終了又は中止したとき。
2) 申請書の記載事項に変更が生じたとき。
(経費の負担)
第10条 利用者は、利用に係る経費の一部を負担するものとする。
2 前項の規定により、利用者が負担すべき経費の額及び負担方法は、所長が別に定める。
(実施細則)
第11条 この規則に定めるもののほか、この規則の実施について必要な事項は、所長が別に定める。
附 則
この規則は、昭和62年2月3日から施行し、昭和61年4月5日から適用する。
附 則
この規則は、昭和63年2月5日から施行する。
附 則
この規則は、平成元年12月6日から施行し、平成元年6月23日から適用する。
附 則
この規則は、平成4年4月1日から施行する。

学術情報センターの目録所在情報サービスの利用に関する細則

〔昭和62年2月3日〕
制定

改正 昭和63年2月5日 平成元年12月6日 平成4年4月1日

- (目的)
第1条 この細則は、学術情報センター目録所在情報サービスの利用に関する規則(昭和62年規則第10号。以下「規則」という。)に基づき、その運用を円滑に行うための必要な事項を定めることを目的とする。
(利用者の要件)
第2条 利用者は、規則第3条の定めるところに基づき、次の各号に掲げる業務を行うものとする。
1) 目録作成及び図書館間相互貸借(以下「ILL」という。)受付を行うこと。
2) 学術情報センター(以下「センター」という。)が実施する目録講習会の修了者が目録作成を行うこと。
3) 第12条に基づき届出た配置場所名称(以下「配置コード」という。)に係る資料の閲覧等のサービスを行うこと。
2 前項第1号の規定にかかわらず、ILL受付については、同一機関の他の利用者に委ねることができる。
3 同一機関における複数利用者の設置にあたっては、当該機関の図書館等の調整を経るものとする。
4 利用者の名称は、当該利用者における図書館サービスの実施場所に対応するものでなくてはならない。
(利用の申請)
第3条 利用の申請は、機関の長又は図書館長が行うものとする。
2 利用の申請は、別紙様式1の利用申請書を所長に提出するものとする。
(代表者等の選定)
第4条 利用者は、次の各号に掲げる者を設定し、申請書に記載しなければならない。
1) 代表者(利用者の所属機関の長又はそれに準ずる者)
2) 業務責任者(利用者における業務統括者)
3) 連絡責任者(利用者における実務の責任を負う者)
4) ILL責任者(ILL業務について責任を負う者)
5) 経理責任者(利用者の経費の負担に対する支払いの責任を負う者)
(連絡責任者及びILL責任者)
第5条 連絡責任者は、第6条に定める担当者の登録申請及び第12条に定める配置コードの届出を行う者とし、センターとの連絡の責務を負うものとする。
2 ILL責任者は、ILL業務について利用者間の連絡調整を行う者とする。
(担当者の登録申請)
第6条 利用者は、目録所在情報サービスの利用の実務を行おうとする者(以下「担当者」という。)を別紙様式2の担当者登録申請書により申請し、所長の承認を得るものとする。

2 一利用者が登録できる担当者の数は、所長が別に定める。

3 担当者は、複数の利用者に所属することができない。

(担当者の承認と利用番号)

第7条 所長は、登録申請された担当者を適当と認めた場合は、担当者に利用番号を交付し、これを承認するものとする。

(利用種類の選択)

第8条 担当者は、登録申請に際し、次の各号に掲げる利用の種類を選択するものとする。

- 1) 目録作成
- 2) 目録検索
- 3) ILL依頼
- 4) ILL受付

2 担当者は、選択した利用の種類のほかは利用を行うことができない。

(利用番号の管理)

第9条 担当者は、交付された利用番号を第三者に利用させてはならない。

(担当者等の変更の届出)

第10条 利用者は、担当者登録申請書の記載事項に変更が生じた場合は、すみやかに所長に届出なければならない。

(配置コードの届出及び登録)

第11条 利用者は、所蔵資料の配置場所名称を別紙様式3の配置コード登録届出書により、所長に届出するものとする。ただし、利用者の有する配置場所が一である場合は、これを必要としない。

2 利用者は、利用に先だち、所長に届出た配置コードをシステムに登録するものとする。

(配置コードの設定基準)

第12条 利用者は、次の各号に従い、配置コードを設定するものとする。

- 1) 配置コードは、一利用者内で一意であること。
- 2) 配置コードは、9文字以内の漢字又は英数字の組合せであること。

2 一利用者の使用できる配置コードの数は、所長が別に定める。

(配置コードの変更登録)

第13条 配置コードに変更が生じた場合は、利用者は、すみやかに所長に届出を行い、システムに配置コードの変更登録を行うものとする。

(業務運用)

第14条 目録所在情報サービスの利用に係る目録業務及びILL業務は、所長が別に定める要領に基づき、これを行わなければならない。

(データベースの維持)

第15条 所長は、データベースの品質維持のため、データ等に係る回答、データの更新及びその他必要な措置を利用者に要請することができる。

2 所長は、瑕疵のあるデータについては、これを修正又は排除することができる。

(利用状況の点検)

第16条 所長は、利用者の利用状況を年1回以上点検し、必要に応じて利用者に報告を求め、これに基づき指導又は助言を行うものとする。

(雑則)

第17条 この細則に定めるもののほか、目録所在情報サービスの利用に関し必要な事項は、所長が別に定める。

附 則

この細則は、昭和62年2月3日から施行し、昭和61年4月5日から適用する。

附 則

この細則は、昭和63年2月5日から施行する。

附 則

この細則は、平成元年12月6日から施行し、平成元年6月28日から適用する。

附 則

この細則は、平成4年4月1日から施行する。

平成4年度目録システムの機能向上予定項目

当センターでは、平成4年度の目録システムの機能向上を図るため、以下の事項についてシステムの改訂を実施する予定です。(実施は平成4年8月3日からを予定しています。)

1. 書誌データの作成機関・最新修正機関の参加組織コードの表示

目録システムが現在のような高いヒット率を有し、所蔵データが週に4～5万件も登録されるのは、書誌の作成及び修正に積極的に携わっていただいている各参加組織の尽力に負うところ大であると言えます。しかし、一方で当センターに書誌調整を依頼される件数も年々増加してきています。そこで今回の改訂では作成者としての寄与を明示すること及び各参加組織間で書誌調整が円滑に実施されることを目的として、和洋図書の書誌データに作成機関・最新修正機関の参加組織コードを表示することとします。

「画面表示」

- 和洋図書の書誌詳細表示画面の書誌ID表示行に、書誌IDに続けてCRTDT(レコード作成日付)、CRTFA(レコード作成参加組織コード)、RNWDT(レコード最新修正日付)、RNWFA(レコード最新修正参加組織コード)の順に 画面表示する。
- フィールドが存在しなかったりNULL値であった場合には、当該フィールドは表示せず、以降のフィールドをつめて表示する。

和図書書誌詳細表示	NC	1/	5
>			
<BN03946467> CRTDT:19911108 CRTFA:FA001234 RNWDT:19911114 RNWFA:FA003456			
GMD:	SMD:	YEAR:1950	CNTRY:ja TTLL:jpn TXTL:jpn ORGL:eng
VOL:	ISBN:	PRICE:	

- 書誌ID表示行はMARC到着フラグをも表示するため、書誌レコードによってはCRTDT～RNWFAまでを1行で表示できない場合が生じる。その場合には、次の画面例のように2行目を追い込んで表示する。

○表示が2行にわたるとき。

和図書書誌詳細表示	NC	1/	5
>			
<BN03946467> MARC:arrived CRTDT:19911108 CRTFA:FA001234 RNWDT:19911114			
RNWFA:FA003456			
GMD:	SMD:	YEAR:1950	CNTRY:ja TTLL:jpn TXTL:jpn ORGL:eng

2. 所蔵データにおける「コピーの注記」フィールドの新設

昨今、図書館では資料の保存対策について検討が開始されており、現状の調査が急がれています。この調査を目録システムのデータを利用して行いたいとの要望があり、当センターで検討しておりますが、所蔵データに「コピーの注記」というフィールドを新しく設ける方向で対応することを予定しております。

このフィールドはその名のとおり、各参加組織が所蔵するコピーの状態について記入できるフィールドです。利用方法としては次のようなことが考えられます。

ア 所蔵するコピーの劣化の状態(例えば酸性紙による劣化が進んでいる、虫食いがある等)を記録する。

イ 所蔵するコピーに見られる特筆すべきこと(例えば著者の書込みがある等)を記録する。

「改訂内容」

- 1) 「コピーの注記」のフィールド名は「CPYNT」とします。
- 2) 所蔵新規入力画面、所蔵流用入力画面、所蔵修正画面において、CPYNTフィールドに対するデータ記入、修正を行えるようにします。
- 3) 入力時におけるデータ記入欄の表示位置等は基本的には以下のとおりとします。(詳細は画面例を参照)。

図書： LDFフィールドの次の位置に改行表示する。VOL単位(VOL, CLN, RGTN, CPYR, LDF, CPYNTのセット)での繰り返し登録が可能。

雑誌： LDFとLTRの間の位置に改行表示する。繰り返し不可。 共通： 所蔵新規入力画面では常に表示する。所蔵流用入力画面、所蔵修正画面においては元データにCPYNTがある場合のみ表示する。

1 図書所蔵新規入力画面

```
和図書所蔵新規入力
>:
<BN00254478>立命館大学人文科学研究所研究叢書 . -- 有斐閣 .
<FA013312> 学情セ30
<CD0003711362>
LOC:
VOL:      CLN:      RGTN:      CPYR:
LDF:
CPYNT:
LTR:
```

- ・ CPYNTフィールド記入欄を常に表示する。

2 図書所蔵流用入力画面

```
和図書所蔵流用入力
>:
1. 図書
<BN00254478>立命館大学人文科学研究所研究叢書 . -- 有斐閣 .
<FA013312> 学情セ30
<CD0003711362>
LOC: 図書
VOL:      CLN: 333.33      RGTN: 12345      CPYR:
LDF:
CPYNT: ACID:A.
```

- ・ 流用元データのCPYNTフィールドにデータが存在する場合のみ表示する。

3 図書所蔵修正画面

```
和図書所蔵修正
>:
<BN00254478>立命館大学人文科学研究所研究叢書 . -- 有斐閣 .
<FA013312> 学情セ30
```

1. 図書
<CD0003711362>
LOC: 図書
VOL: CLN: 333.33 RGTN: 12345 CPYR:
LDF:
CPYNT:

- ・修正元データのCPYNTフィールドにデータが存在する場合のみ表示する。

4 雑誌所蔵新規記入画面

和雑誌所蔵新規入力
>
<AN00019403>宇都宮高等農林学校科学研究 . -- 1 (昭16)-
<FA013312> 学情セ30
<CD0003711362>
LOC:
HLYR: HLV: CONT:
CLN:
LDF:
CPYNT:
LTR:

- ・CPYNTフィールド記入欄を常に表示する。

5 雑誌所蔵流用入力画面

和雑誌所蔵流用入力
>
<AN00019403>宇都宮高等農林学校科学研究 . -- 1 (昭16)-
<FA013312> 学情セ30
1. 図書
<CB0003711362>
LOC: 図書
HLYR: 1941-1943 HLV: 1-5 CONT: +
CLN:
LDF:
CPYNT: ACID:A.

- ・流用元データのCPYNTフィールドにデータが存在する場合表示する。

6 雑誌所蔵修正画面

和雑誌所蔵修正
>
<AN00019403>宇都宮高等農林学校科学研究 . -- 1 (昭16)-
<FA013312> 学情セ30
1. 図書
<CB0003711362>
LOC: 図書
HLYR: 1941-1943 HLV: 1-5 CONT: +
CPYNT: ACID:A.

- ・修正元データのCPYNTフィールドにデータが存在する場合のみ表示する。

4) 和洋図書雑誌の所蔵詳細表示画面では、以下のようにCPYNTフィールドを表示します。

1 図書

和図書所蔵詳細表示
>
<BN00254478>立命館大学人文科学研究所研究叢書 . -- 有斐閣 .
<FA013312> 学情セ30
<CD0003711362> CRTDT:19880315 RNWDT:19900825
LOC: 図書
VOL:1 CLN: 333.33 RGTN: 12345
LDF: ¥M1
CPYNT: ACID:A.
VOL:2 CLN: 333.33 RGTN: 56789
CPYNT: ACID:B.
LTR:XXXXXXXXXX

- ・VOL単位で繰り返し表示する。
- ・各VOLのLDFフィールドの次の位置に、改行表示する。
- ・フィールドが存在しなかったりNULL値であった場合には表示せず、以降のフィールドをつめて表示する。

2 雑誌

和雑誌所蔵詳細表示
>

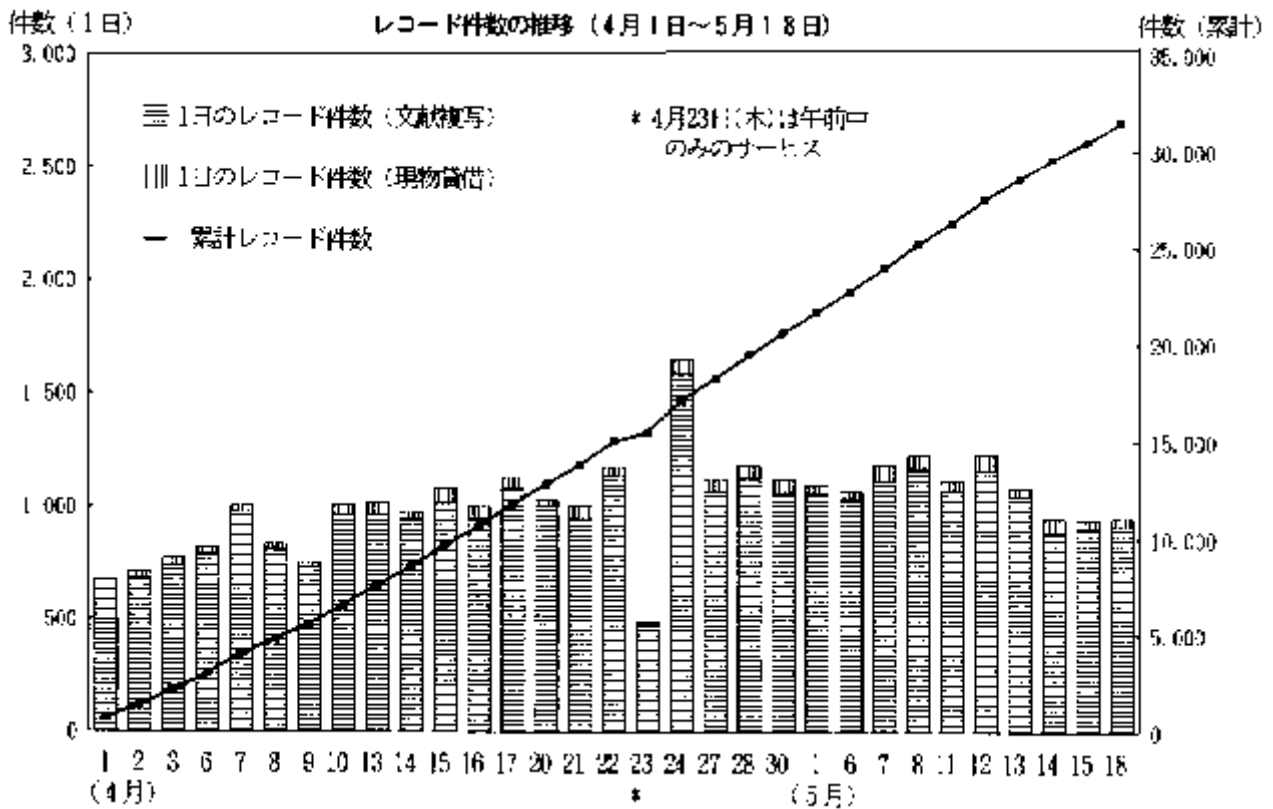
<p><AN00019403>宇都宮高等農林学校科学研究 . -- 1 (昭16)- <FA013312> 学情セ30 <CB0003711362> CRTDT:19880315 RNWDT:19900825 LOC:図書 HLYR: 1941-1943 HLV: 1-5 CONT: + CPYNT: ACID:A.</p>

- ・ LDFフィールドとLTRフィールドの間の位置に、改行表示する。
- ・ フィールドが存在しなかったりNULL値であった場合には表示せず、以降のフィールドをつめて表示する。

- 5) 「コピーの注記」フィールドの利用方法
このフィールドへのデータの記入の仕方については、別途定めます。

ILLシステムの運用状況

4月1日にサービスを開始したILLシステムについては、当初より順調に件数が増加しています。レコード件数の推移及び図書館の館種間の依頼件数については以下のとおりです。



ILLに関する質問書から

ILLシステムのサービス開始から2カ月余りたちました。その間に寄せられたILLに関する質問(システム面、運用面)をいくつか紹介し、回答します。

なお、「ILLシステム操作マニュアル」に関連する記述があるものについては、該当ページを挙げていますので併せて参照してください。

○ 依頼館に関する事項

1 重複依頼について

新規依頼で5件レコードをORDERし、(複写依頼)業務選択画面に戻ると、「未処理」のレコードが4件しかなかった。最初の1件をORDERし忘れたと思い、改めてレコードを作りなおしてORDERしたところ、受付館から「当レコードは重複依頼により謝絶します」というコメントとともに「新着照会」で返されてきた。なぜか?

ILLシステムではオンラインでデータをやりとりしていますので、ORDERされると、すぐに受付館でレコードを受付処理することができます。するとレコードの状態が「未処理」から「処理中」に変わります。このケースでも依頼館で5件分を連続して作成中に、受付館で最初の1件を受付したのだと思われます。そのため業務選択画面での「未処理」の件数が4件しか表示されなかったわけです。

このような場合は、必ず依頼検索画面等でレコードの検索をして(1レコードの状態、2レコードID、3相手館の参加組織ID、で検索可→マニュアルp.58)、そのレコードが登録されていないことを確認してから新規にレコードを作成してください。このケースではたまたま受付館が同じ図書館だったので重複依頼だとわかったわけですが、もし違う図書館を指定した場合は、その両館から同じ文献の複写物が送付されるといったことも起こり得ます。ILLでは料金支払の責務が伴いますので、重複依頼にはご注意ください。

2 「準備中」のレコードの保存について

COPYコマンドで作成したレコード(状態は「準備中」)をORDERせずにRETURNしたところ、業務選択画面での「準備中」のレコード件数が0件となっていた。ハードコピーをもとに依頼検索画面で検索してみても当レコードがヒットしない。COPYコマンド発行時にレコードの登録はおこなわれないのか。

COPYコマンド発行時、および新規依頼でFORMした直後の「準備中」のレコードについては、ORDERまたはSAVE、あるいはCANCELコマンドを発行しないとILLデータベースに登録されません。ORDERせずに「準備中」の状態のままレコードを保存したい時は、SAVEコマンドを使ってください。

これに関連して、「準備中」の状態の画面をハードコピー、あるいはローカルシ

ステムにダウンロードして依頼データとして保存している図書館においては、控えがあるので依頼したつもりでいても、実際にはORDERされていないということも起こり得ますのでご注意ください。

3 新規依頼の連続処理について

ORDER直後の複写依頼検索・簡略表示から、連続して新規依頼をするにはどうすればよいか。

1) 同一申込者等の場合、COPYとRETRYを連続して使うと便利です。複写依頼検索・簡略表示画面からCOPYコマンドでレコードを複写して、BIBフィールドの書誌事項を修正し、RETRYを発行します。検索画面への移行と同時に検索が行われ、その結果が表示されます。RETRY発行時、BIBに入力されているデータのうち、1書誌ID、2標準番号、3標題等の優先順位で検索が行われます。

なお、複写の場合は雑誌、貸借の場合は図書のファイルを自動的に検索します。図書/雑誌の別を指定したい場合(複写業務で図書目録検索をしたい等)にはオペランドとして「M」(図書)、「S」(雑誌)を指定できます。(→マニュアルp.41、52～55)

2) SWITCHコマンドで複写依頼検索・簡略表示画面から目録検索画面に移行することもできます。図書の検索をする時はオペランド「M」、雑誌の検索なら「S」をそれぞれ指定します。(→マニュアルp.56)

4 PRMT(徴収猶予許可番号)の入力について(1)

受付館を1私立大学、2国立大学の順に指定し、1の私立大学にはPRMTは不要なので入力せずにORDERした。しかし、1で謝絶されて2の国立大学へ自動転送されてしまった。2からは、前納扱いと判断されて納入告知書が送付されてきた。次候補館の徴収猶予許可番号を入力する方法はないだろうか。

「照会」の状態からPRMTにデータを入力して、FORWARDで次候補館へ転送することができます。このケースのように、最初の私立大学が謝絶して、次の国立大学に転送されるのを回避するためには、「謝絶の場合はPARDON2で照会してください」といった旨をORDER時にCMMNTに入力しておいてください。(→マニュアルp.43、70)

5 PRMT(徴収猶予許可番号)の入力について(2)

PRMTのフィールドに漢字でデータを入力してORDERすると、「・・・入力データがDB定義と異なります」というエラーメッセージが表示されることがあるが、なぜか?

PRMTのフィールドには、英数カナ文字で最大10桁(バイト)までデータを入力できるようにになっています。(→マニュアルp.105)

英数カナ文字以外に漢字を入力した場合、画面上では表示されませんが、漢字の始まりと終わりにそれぞれ2桁分のシフトコードがセットされます。ORDERするとレコードがデータベースに登録されますが、その時点で入力されたデータにチェックがかかり、10桁を越えたデータが入力されている時はエラーメッセージが表示さ

れます。(→入力例参照)

徴収猶予許可番号の入力については相手館とも相談のうえ、簡略な形で入力する、あるいはCMMNTに必要な事項を記入する等、運用面で調整してください。

(入力例)・画面上の表示・・・学情セ平 4-8
(桁数) 2 2 12 111=10桁
・ORDER時・・・(全) 学情(半)セ(全)平(半)4-8
(桁数) 2 2 2 2 12 2 2 111=18桁→エラー

6 FAXはどちらのフィールドに?

FAXで複写物の送付を希望する場合、TYPE(複写種別)とSPVIA(送付方法)のどちらのフィールドに「FAX」と入力するのか。

マニュアル(p.36、107)ではTYPE(複写種別)にFAXを入力する例をあげていますが、受付館における見落としを回避するためにも、当面はTYPE、SPVIAの両方にFAXと入力するようにしてください。

7 「確認」のレコードの修正

「確認」状態のレコードを修正する場合、ON0(依頼番号)やCLNT(申込者氏名)等の修正ならば、CALLBACKで「到着処理中」の状態に戻して処理できるが、料金に関する項目を修正する場合は、どのような操作をすればよいのか。

料金に関する項目(ITEM～SUM)を修正できるのは受付館側だけです。(→マニュアルp.67、106～107) 状態遷移図にもあるように、「到着処理中」の状態からCLAIMコマンドで(その際、CMMNTが必須項目になります)「クレーム未処理」の状態にして受付館に修正を依頼してください。受付館でこの画面を表示すると「処理中」になるので、そこで料金項目の修正ができます。依頼館・受付館でよく連絡を取り合って処理してください。

8 所蔵検索について

- 1) 目録検索の書誌詳細表示画面からLOOKUP HOLDINGSで所蔵検索すると、「・・・検索結果は0件です」のメッセージが表示される。このような場合、所蔵館が存在しないと判断してよいのか。
- 2) LOOKUP HOLDINGS後に直接、所蔵詳細表示画面に移行してしまうことがあるが、ここから他の所蔵館を検索するにはどうすればよいのか。

1) ILLシステムでは、LOOKUP HOLDINGS発行時に、今日現在ILLシステムによる受付可能な図書館を自動的に検索します。検索結果0件のメッセージが表示された時は、翌日以降、受付可能な図書館が存在する可能性がありますので、SSTATを空白、あるいは「N」にして再検索してみてください。ILL参加館のうち受付を停止(休止)している図書館が表示されることがあります。さらに所蔵詳細表示画面からLOOKUP LIBRARYを発行すると参加組織情報が表示されますので、休止期間等の確認ができます。(→マニュアルp.102)

2) 所蔵詳細表示画面から他の所蔵館を検索するにはBROWSEコマンドを使います。所蔵検索・簡略表示画面が表示されるので、SSTAT・ILFLG等に検索条件を指定することで、受付停止(休止)中の参加館、あるいはILLシステム未参加館の所蔵も

検索できます。(→マニュアルp.101) なお、ここでRETURNを入力すると書誌詳細表示画面まで戻ります。

9 COPYS,LOANSの「C」

- 1) 目録の所蔵検索画面でCOPYSに「A△C」という値がセットされているが、「C」というのはどういう意味か。
- 2) 所蔵館と受付館が異なっている場合、レコードの処理はどうなるのか。また、依頼館ではどういう点に注意したらよいか。

1) Conditional(条件つきで可)の意味です。多くの場合、所蔵館と受付館が異なっている時に使われています。 2) COPYSが「C」の図書館を指定してORDERすると、所蔵事項(HMLID～RGTN)には所蔵館のデータがセットされますが、レコードは自動的に受付館へ依頼されます。AMLNMという項目に受付館の略称がセットされるので、レコードに関する問い合わせをしたり、依頼検索でAMLIDから検索する時は、所蔵館と受付館を混同しないようにしてください。

○ 受付館に関する事項

1 PARDONの使い分けについて

- 依頼のあった巻号が未着のため謝絶しようとしたが、受付館が当館しかないと思いコメントに「当館未着」と入力して「PARDON 2」で照会したところ、依頼館から「PARDONで次候補館へ転送してください」と回答があった。
- 1) レコードの所蔵事項には当館のデータしか表示されていないが、次候補館が存在するのか。
 - 2) 依頼館側で転送はできないのか。

1) 受付館側では当受付館に関する所蔵事項(HMLID～RGTN)しか表示されないようになっています。画面上には表示がなくても次候補館が指定されている可能性があります。

2) 依頼館側でも「照会」の状態からFORWARDというコマンドで次候補館にレコードを転送することができます。

1) 2) に関連して補足説明します。依頼館に照会してその回答を待つ必要がない場合は、(当館未着のようなケース)「PARDON 2」で照会するよりも、「PARDON」で自動転送してください。なお、「PARDON」だけの場合でもCMMNTに謝絶内容等を入力することができます。(→マニュアルp.70,71)

依頼館側でも、受付館からの照会のコメントに対して回答する必要がないような場合は、ANSWERではなくFORWARDで次候補館に転送することができます。逆に、受付館側で回答を求めているような場合は(受付館で複写を済ませてしまっているケース等)、必ずANSWERで回答してください。(→マニュアルp.42～43、117)

2 PARDON時のエラー

PARDONを発行すると、「FAOOでは・・・臨時休館中です」のエラーメッセージが表示され、PARDONできないことがある。なぜか?

指定されている次候補館が、依頼館でORDERした後にサービスステータス (SSTAT)を「N」に変更した時、このようなエラーが表示されます。この場合は、次候補館休館中である旨をCMMNTに記入して「PARDON 2」で依頼館に照会してください。

3 料金前払いの指示

前納扱いになる場合、振込指示や合計料金の通知をするには、どのような操作をすればよいのか。

PARDONコマンドにオペランド「2」を指定して「新着照会」の状態では依頼館に照会してください。その際、CMMNTに料金の総額や振込指示等を入力してください。(→マニュアルp.71)

なお、ITEM以降の項目に料金を入力して「PARDON 2」を発行しても、データはクリアされます。通知内容はCMMNTで運用してください。

4 SCANコマンド

1) 「処理中」のレコードの集合(例えば50件)のなかから特定のレコードを検索するのに何か効果的な検索方法はないであろうか。
2) 同一申込者、同一雑誌の依頼が複数件あるような場合、簡略表示形から識別するのは非常に困難であるが、ILLレコードIDで検索するのも12桁入力しなければならないので手間がかかる。

1) SCANコマンドで限定検索ができます。雑誌のタイトルや論文名、著者等の任意の文字列を指定すれば、該当するレコードを簡単に検索することができます。

2) 1)と同様にSCANで、受付番号(ANO)から限定検索ができます。またILLレコードIDでSCANする時も、12桁全部入力しなくても、例えば任意の3桁を「SCAN ID=287」というように指定すれば当レコードを検索することができます。(→マニュアルp.59～60、82～83)

5 MDISPLAYの指定

MDISPLAYで、例えば1件目と3件目と8件目というように、とび番(不連続な番号)で指定できないのか。

現在のシステムでは、MDISPLAYコマンドは連続した番号に対してしか入力できないようになっています。(→マニュアルp.78～79)

この件はたいへんご要望が多いので、今年度のシステム改訂で、とび番でも指定できるようにする予定です。

○ その他(運用事項)

1 現物貸借の精算処理

ILLシステムでの現物貸借の料金処理は、文献複写と同様に費用相殺制度によって処理されるのか。

現物貸借については費用相殺の対象となりませんので、従来通りの処理(切手の送付等)をしてください。国立大学間等の文献複写のレコードについては、従来通り費用相殺制度によって処理します。(→マニュアルp.116)

2 学内依頼の精算処理

学内依頼のもの(本館→分館等)をILLシステムで処理した場合、料金処理については、費用相殺制度の対象となるのか。

国立大学等の同一機関内の参加組織間で処理されたレコードについては相殺処理の対象とはいたしません。

3 「確認」のレコードの保存期間

現在、当館ではローカルシステムの整備が間に合わないため、ILLレコードのハードコピーのみを保存しているが、将来的にはローカルシステムにダウンロードすることを考えている。「確認」の状態のレコードは一定期間を過ぎるとクリアされるということを聞いたが、どのくらいの期間データベースに保存されるのか。

「確認」「返却確認」「CANCEL」のレコードは、一定期間を過ぎるとILLのデータベースから削除する予定になっていますが、「一定期間」の設定については現在検討中です。決定しだい改めてご報告しますが、今年度のレコードについては、来年度の前期頃(月日は未定)までは保存する予定です。

出版国コード表の一部改定

USMARC Code List for Countries 掲載の国名コードの変更に伴い、コーディング・マニュアル付録1.2〔出版国コード表〕を一部改定します。

新コードによる運用は5月29日から実施しています。

変更したコードは以下のとおりです。

1) 新規に追加されたコード

旧ソビエト連邦の各共和国に対応するコード

2) 不使用となったコード

ソビエト連邦 ur (今後は各共和国に対応するコードを付与)

詳しくは、本号付録「コーディング・マニュアル」を参照してください。

なお、先にオンラインのニュース画面でお知らせしましたように、新コードの運用開始に合わせ、データチェック・プログラムを変更しました(5月29日実施)。不使用となったコードが記入されていると、SAVE / REGISTER コマンド発行時にエラーメッセージが表示されます。書誌レコードを流用入力、修正するときは改定後のコード表に従いデータ記入を行ってください。

教育用データベースの更新

目録講習会、及び接続直後の自習等で利用されている教育用データベースを5月14日に以下のように更新しました。

特に、1987年当時のデータで凍結してあった図書の参照MARCに対して、1990年1年間分のデータを追加することによって、流用入力 of 課題選定に便宜を図りました。

同様に雑誌についても実習を行いやすいようデータを更新しました。

総合目録データベース (更新分のみ)

データベース名			更新前件数	更新後件数	内 容
図 書	和	書 誌	120,814	119,026	・ 講習会用テキストの改訂にともなう 修正・追加 ・ 不要レコードの削除等
		所 蔵	215,825	215,788	
	洋	書 誌	92,953	91,376	
		所 蔵	110,825	110,737	
雑 誌	和	書 誌	40,319	72,767	・ 1992年4月現在の業務用DB を反映 ・ 講習会用テキストの改訂にともなう 修正・追加 ・ 不要レコードの削除等
		所 蔵	1,130,381	1,499,192	
	洋	書 誌	114,505	111,449	
		所 蔵	834,624	906,845	
著者名典拠			142,756	552,396	
和雑誌変遷マップ			5,254	8,535	
洋雑誌変遷マップ			9,931	12,843	

参照ファイル (更新分のみ)

データベース名		更新前件数	更新後件数	内 容
参照LC	図書	550,083	1,083,117	・ 1990年1月～12月分のデータを追加
参照JP	図書	674,254	737,145	

目録システム利用マニュアル検索編(第3版)の刊行

目録システム利用マニュアル検索編の第3版を、本年3月末に刊行いたしました。平成元年3月に刊行しました「目録システム利用マニュアル 検索編」(改訂版)を、RECONファイルの取り扱い、資料種別コード一覧の拡充等、大幅に変更・修正いたしました。

なお、この第3版発行後、出版国コード表一覧(p102～104)については、ソ連邦の解体に伴い、一部変更されております。詳しくは本号のコーディングマニュアルを参照してください。

目録システム利用マニュアルデータベース編(改訂版)発売中

参加図書館以外の図書館関係者及び研究者向けに、標記の出版物が電気・電子学術情報振興財団から刊行されました。A4版ビニール装、全103ページ、1900円(消費税込み)で、紀伊國屋書店が扱っております。図書館内の研修用あるいは学術情報システムに関連する図書館情報学の講義の資料にお使い下さい。